

事業所における自己評価結果(公表)【放課後等デイサービス】

公表: 5年 1月 31日

事業所名: ハート愛

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		・ダイナミックな動きをする運動のための部屋や、情緒的安定のためのスヌーズレンなどクールダウンのための空間が不足気味であるが、法人内の共有スペースの活用で解決を図っている。	・共有スペースということで、活動計画に無理が来ることもあるが、法人の将来計画の実現等により、空間確保等の課題は解決予定。
	2 職員の配置数は適切であるか		○		・配置基準は満たしているが、少ないと感じることもある。 ・児童数が多いときや目の離せない児童が多いときは、安全確保やより充実した活動提供のためにシフトの工夫等に対応している。	・活動内容の工夫や送迎の工夫等、支援の質を担保しながらできるシフトの工夫等に対応する。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		・水道の高さが合わないが、鏡を低い位置に下げるなどに対応している。 ・児童用トイレなど設置しているが、絶対数が不足しているため、時間差若しくは入所施設のトイレを使うなどに対応している。 ・入り口で結構段差があるところもあるので、注意を促すなどの対応をしている。	・緊急を要するものは業者依頼し、そこまでないもの若しくは大きな工事になりそうなものは新築(改築)移転時に改善する。
業務改善	4 業務改善を進めるための、PDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			・通常の活動企画は全職員の助言をもらいながら、担当及びサブの職員を中心に進め、季節行事等大きな活動は、全員で企画・分担しながら運営し、振り返りまでしっかりとPDCAサイクルで次回に生かすようにしている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○		・ガイドライン評価はもとより、日々のやりとり、「保護者の集い」等での聞き取りを通して情報収集に努め、対応するようになっている。避難訓練はじめ、必要な情報を保護者に流すことで、さらなる信頼向上にもつながっている。	・施設設備面のことについては、法人の計画に沿って優先順位を考慮しながら対応してもらっている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			・平成28年度から、法人のホームページ掲載、紙媒体による館内掲示及び保護者への配付等を行っている。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		・今年度は、公開療育は行えなかったが、法人の第三者委員には今回も当事業所の概要をお伝えするとともに、参観等をお願いしながら評価をいただき、当事業所の強み等を改めて指導していただいている。	・今年度もコロナ禍のため、学校との連携が行えなかったが、状況が好転したら学校からの評価もいただくようにしたい。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○		・年間計画に基づいた事業所内研修、日頃の勤務におけるOJTはもとより、今年度は新たに、他の放課後等デイサービスに「視察研修」を申し入れ、職員の資質向上に資するようにした。	・今後も、OJT、事業所内研修、外部講師招聘による研修の外に、「視察研修」等の充実を図っていく。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか		○		・児童を軸に、保護者との情報共有、必要に応じた専門機関の助言、さらに標準検査結果等を参考にしながら行っている。	標準検査については、以前から継続的に行っているが、今年度は保護者経由で他機関の検査結果等の情報をいただくことが増えた。今後一層情報連携に努めたい。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		・平成29年度以降、保護者の協力を得て、全児童について「S-M社会生活能力検査」を実施している。	・放課後等デイサービスへのより効果的な反映につとめたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか		○		・前年度若しくは前回等の反省を基に、担当が中心になって原案を作り、複数の職員で内容検討をする。立案に当たっては、ガイドラインの「基本活動」を踏まえて、発達支援のためのバランスを考慮しながら構成している。	・全体の流れは実践の積み上げで充実しているが、児童一人一人の特性を踏まえたものになっているかを、絶えず振り返りながら進めるようにしたい。「この子にとってこの活動は適切か?」の視点は忘れないようにしたい。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○		・ガイドラインを踏まえながらバランス良く構成していくが、児童の興味・関心、季節・伝統行事、社会との接点等を考慮しながら、見通しとモチベーションを高く持てるように配置している。	・担当が固定化しないようにして、職員の間違った違いが活動に幅を持たせるように分担している。(化学反応への期待)
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○		・活動に幅を持たせるために、平日は短時間でできること若しくは数日に分けて見通しをもたせながら実施すること。長期休業や土曜日など時間を十分に確保できるときは、季節行事等ダイナミックな活動等を準備している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成しているか		○		・「活動」の時間は基本的に集団活動だが、時間差で来所(到着)する時間帯等は個別指導に当てて目標の達成につながるようにしている。	
	15 支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○		・直前にはできない日もありますが、できるだけ事前に打合せするように心掛けている。	・活動等より効果的に行うために様々な用具等を作製するが、日程的な余裕を持たせられるよう全員で言葉を掛け合って早め早めに進めたい。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		・活動後には振り返り、他の職員にももらった意見(反省と課題)で、次回に向けて改善するようになっている。	・複数の職員で話題にして振り返るが、支援日誌は「進行」担当以外にサブの職員も課題等を記述するようになっている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○		・活動立案の際には、前回の支援日誌の課題等を踏まえるとともに、活動後の記録は進行担当ともう一人別の職員で記述するようになっている。	・発達目的のエピソードがあった場合は、職員全員で話題を共有し、考察しながらケース記録に残すようにする。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか		○		・児童発達支援管理責任者及び各児童担当を中心にモニタリング会議に出席し、計画の見直しについて精査するようになっている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか		○		・各月の行事やテーマに基づいて、ガイドラインの基本活動を当事業所なりに分析し、有機的に統合しながら活動計画作成を行っている。	・活動を単元化してストーリー性を持たせること、必ずしも毎日来るわけではない児童への活動の工夫を今後も一層進めたい。	

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			・相談支援事業所により多少の温度差はあるが、児童発達支援管理責任者、該当児童担当者が中心になり参加するようにしている。情報共有については郵送や電話連絡等を活用しながら関係を深めている。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			・行事予定、下校時刻等の確認・情報共有等は、文書若しくは電話・メール等で密に行うようにしている。また、児童の体調・心身のその日の状態等は、送迎の際を中心に行っている。	・コロナ終息の後は、学校職員との対面での情報交換等も今後計画していきたい。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			・所謂「医療的ケア」の必要な児童は在籍していないが、持病若しくは一時的な病気の与薬等は保護者との緊密な連携の下、行っている。	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			・各事業所所有の情報や、所有している児童については鹿児島市発行の「夢すこやかファイル」等も活用して、情報共有を図るようにしている。	・市から幼稚園、保育所だけでなく福祉事業所へも、ファイルを御提供いただけるように願いたい。ファイルを持たない児童へ活用したい。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			・進路先への情報提供については、保護者の同意を前提とし、保護者を經由してお渡しするようにしている。	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			・数年前からY医療福祉センターと継続的に契約しており、今年度も年間を通して専門家から御指導をいただいている。	・毎年お願いしている発達支援センターからの講師招聘による研修会を今年度も持てなかったが、来年度こそ復活したい。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			・今年度も児童クラブへの働きかけを行ったが、残念ながら実現できていない。	・コロナがおさまったら、計画し実施したい。今の状況に合った交流ができればと考えている。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			・児童発達支援管理責任者、管理者及び相談支援専門員がオンラインで参加している。	
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			・児童の送迎の際、口頭で保護者にお伝えし、併せて毎日の個別の活動記録を通して、また内容によっては電話で共通理解を持つように心掛けている。	
保護者への説明責任等	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			・ペアトレまでいかないが、個別で助言や支援法などお伝えしている。 ・保護者の集いや合同研修会及びその他の機会に絶えず保護者のニーズを聞き取り、取り上げて解決につながるよう心掛けている。	・今後も「保護者・職員合同研修会」を企画し、子どもへの多面的アプローチについて機会を持てるようにしたい。
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			・児童発達支援管理責任者を中心に、利用・契約前の見学・体験時等に必要な諸事項について説明するようにしている。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			・連絡帳、電話若しくは送迎時等、内容に応じて担当が応えたり児童発達支援管理責任者が対応したり、職員間で話し合った上で対応するなどしている。また、Y医療福祉センターの専門家等にも相談するなどしてよりよい解決になるようにしている。	・Y医療福祉センターとは今後も連携を続けることで職員の資質向上、保護者からの信頼度をさらに高めたい。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			・これまで、事業所からの情報提供が多くなりがちであったが、今年度は保護者同士の情報交換の時間を十分に確保し非常に好評であった。	・今後さらに保護者間の連携が強まるような支援ができる仕組みにしたい。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			・法人の苦情受付窓口もあるが、これまで同様、日頃から対面、電話、LINEなどで細やかに情報共有を行うことで、今年度も苦情に発展するようなものはなかった。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			・週報、月報、法人季刊紙等を視覚情報等を豊富に入れながら、様々なお願い・連絡等について紙媒体若しくはSNS等でその都度発信している。	
	35 個人情報に十分注意しているか	○			・全員に共通する情報はしっかりと守り、個人(保護者・児童)によって判断が異なることについては、「人権擁護ハンドブック」等活用しながら年度初め若しくはその都度調査・確認しながら対応している。	・個人だけでなく、時代によって守るべき基準がより厳しくなることもあるため、絶えずアンテナを高めて対応したい。
	36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			・様々なトラブルの原因となりやすい「相互障害状況」に陥らないように、日常的にTEACCHやINREALなど職員のコミュニケーション力を維持・向上させるために互いに話題にするようにしている。	
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			・コロナ禍のため、法人、事業所共に外部を招待できなかった。事業所としては、近隣の「ふれあいスポーツセンター」の『ボランティア花壇』などで職員と関わる機会を継続している。コロナ終息後はお招きするなど交流の機会を増やしたい。	・終息後は、法人の『秋祭り』、事業所の『夏祭り』への招待など活性化させたい。

	チェック項目	はい	どちらとも いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		・『児童搜索マニュアル』『感染症対応マニュアル』『防災マニュアル』等作製し、必要に応じて保護者に配付している。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		・法人全体だけでなく、事業所内で「地震・火災避難訓練」及び「送迎車避難訓練」等実施している。支援ツールも毎回反省に基づき進化させている。反省まで含めた避難訓練計画書を保護者に配付することで、今年度は特に好評価を得ている。	・平日は、活動時間帯が違うため、法人との合同訓練が持ちにくいのが、可能な限り訓練を充実させたい。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		・研修会に出席した職員による伝達研修会及び管理者による指導講話により、年間計画及びトピックス的に研修に組み込むようにしている。	・虐待防止の基本は人権意識の醸成であると考えられる。日常的に気になる場면을話題にして共に考えるようにしている。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		・基本的には児童との関わりは「交渉」で解決しようとしているが、障害特性により興奮や混乱が見られる児童は、クールダウンの部屋等を活用する。計画書への記載は、必要に応じて随時行う。	・身体拘束を常時必要とするような児童はいないが、職員のさらなるスキルアップで未然に防ぎたい。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		・現在、対象の児童(該当者)はいないが、体制(「家庭調査票」、「栄養アセスメント」及び栄養士との連携等)はできている。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		・職員全員でアンテナを高くして、気になる事案等については、その都度話題にし、必要に応じて法人作成の報告書で発信している。	・危機意識が麻痺すると、「気づき」が弱くなるため、微細な事案でも積極的に話題にするようにしていく。

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)